

令和4年7月22日

業務完了報告書

鳴門教育大学教員教育国際協力センター
石坂 広樹

1. 案件の概要

(1) 案件名

(和文) 令和4年度国別研修エルサルバドル「初中等算数・数学教育における学力評価に基づいた学びの改善」

(英文) Improvement of Mathematics Learning based on the Result of Evaluation Process in Primary and Secondary Education

(2) 準備期間 令和4年4月12日～令和4年5月20日

(3) 研修期間 令和4年5月31日～令和4年7月20日

(4) 研修員数 20人

2. 研修内容(添付)

(1) 案件全体概念図

(2) 単元目標毎のカリキュラム構成

(3) 日程表(単元目標と関連付けたもの)

3. 案件目標(アウトカム)と単元目標(アウトプット)の達成度

(1) 案件目標(アウトカム)

「日本の学力調査制度に関するシステムや詳細なメカニズムについて理解し、母国の学力評価システムを構築するために必要な知見を得ること」

指標: 研修員が本邦研修終了時に構築した学力調査制度の活用に係る計画などを提出し、研修後に研修員によって所属組織の中で共有される予定になっている。

達成度: 提出された計画などにおいて、上記内容が明記されていることが確認された。

(2) 単元目標(アウトプット)

単元目標①: 日本の学力調査制度に関するシステムや詳細なメカニズムについて理解する。

指標: 研修時の発表・提出において講義に対する質問・コメントが提示される。その内容作成に当たって研修員の携わり方・貢献度について4段階評価でB(やや優れている)以上。

単元目標②: 母国の学力評価システムを構築するために必要な知見を得る。

指標：研修終了時の提出において学力調査制度の活用計画，算数テスト問題案・誤答に対する授業・教材に係る改善案が提示される。その内容作成に当たって研修員の携わり方・貢献度について4段階評価でB(やや優れている)以上。